

平成30年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成31年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成30年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成31年3月

農林水産部長 向出 茂三

項 目	実 施 結 果
<p>1 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ</p> <p>◇食料産業パワーアップ</p> <p>○「ふくいの農業基本計画」および「食育・地産地消推進計画」の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業政策、地域政策、人口減少対策の観点から、新たな「ふくいの農業基本計画」を策定します。 ・健康で豊かな生活を実現し、食育・地産地消の取組みを継続的に推進するため、「ふくいの食育・地産地消推進計画」を改訂します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県内外の有識者等による検討会や農業者、農業関係団体等との意見交換(のべ167人)を行い、「新ふくいの農業基本計画」を策定しました。</p> <p>「大規模な農業法人や専業農家から小規模農業者まで、すべての農家が活躍できる農業新時代」を基本理念に、「農家全体の所得を最大化」、「みんなが生きがいを持てる農業」、「ふるさと福井の農村文化を昂揚」を目指し、10のプロジェクトを展開していきます。</p> <p>「ふくいの農業あり方検討会」や各分野の専門家などの御意見を踏まえ、「第3次ふくいの食育・地産地消推進計画」を取りまとめました。今後、「ふくいの食を通じ健康で豊かな生活をつないでいく」を基本理念に、この実現のために必要な施策を実施し、本県の食育・地産地消を推進します。</p>
<p>○競争力を高める福井米づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いちほまれ」の本格生産・販売に向け、生産量を600トンから3,200トン、うち有機・特別栽培米は10倍の500トンに拡大するとともに、2年連続「特A」評価を獲得します。 ・県内・首都圏に加え関西・中京圏へ販路を拡大し、テレビ等メディアを通じた情報発信の強化や「国体・障スポ」でのPR、さらには「いちほまれ」を提供する飲食店を増やし、全国ブランド定着につなげます。 <p>チャレンジ施策</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>平成30年産「いちほまれ」については、生産量を前年産から5倍に、うち有機・特別栽培米は10倍に拡大しました。米の食味ランキング評価については、2年連続「特A」評価を獲得しました。</p> <p>本格販売を迎えた今年度は、県内と首都圏、関西・中京圏を中心に販路を拡大し、CMや全国ネットのテレビ番組での放送をはじめ、「国体・障スポ」でのふるまい、県内外のレストラン等での「いちほまれフェア」など、様々な機会を捉えて「いちほまれ」のおいしさを全国に発信しました。県内外ともに好調な売れ行きとなっており、本格生産・販売の1年目として順調なスタートを切ることができました。</p>

項目	実施結果
<p>・100ha規模のメガファームや40ha規模以上の経営体の育成とあわせて、新規就農1～2年の農業者を対象に栽培や機械操作の研修を実施し、技術習得を支援していきます。 (平成29年度 累計16組織)</p> <p>メガファーム数 4組織増 累計20組織</p>	<p>農地の集積・集約を進めるとともに、農業経営相談所の指導による中期計画の策定支援等により、新たに4つのメガファームを育成しました。 また、新規就農者を対象に、ICT農機の活用事例や活用方法、自走草刈機による畦畔管理などの最新の農業技術についての研修会を開催し、技術習得を支援しました。</p> <p>メガファーム数 4組織増 累計20組織</p>
<p>○九頭竜川地域 農と水の振興ビジョンの推進</p> <p>・三里浜砂丘地において風雪に強いハウスを早急に再整備し、ニンジン、ラッキョウ、ショウガ、ミディトマト、コカブの生産を拡大します。 (平成29年度 177ha)</p> <p>三里浜砂丘地園芸生産面積 190ha</p> <p>・日本一の生産基盤を活かした農業について、教科書への掲載を目指します。また、九頭竜川地域のパイプラインを地域の児童の学習に活用します。 (平成29年度 累計63校)</p> <p>学習会の開催校数 22校増 累計85校</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>平成30年豪雪により倒壊したハウスの復旧を進めた結果、62棟を復旧しました。 三里浜砂丘地において、ニンジン、ラッキョウ、ミディトマト等の生産を拡大し、作付面積は191haになりました。</p> <p>三里浜砂丘地園芸生産面積 191ha</p> <p>各出版社を訪問し、九頭竜川地域の最先端技術を活用した営農を説明しました。 教育委員会や各小学校へ学習会の提案を行い、22校で学習会を開催しました。</p> <p>学習会の開催校数 22校増 累計85校</p>
<p>○福井の野菜・果物をもっと市場へ</p> <p>・周年出荷を目指した大規模園芸施設整備を県下全域に拡大し、ミディトマト、フルーツトマト、イチゴ等の生産を拡大します。 (平成29年度 790t)</p> <p>大規模園芸施設販売量 950t</p> <p>・水田を活用した排水性の良い圃場づくりと大規模栽培を実践し、ネギ、キャベツ、ブロッコリー、タマネギの生産を拡大するとともに、整備した野菜の集出荷貯蔵施設を活用し、県内外への安定的な契約出荷につなげます。 (平成29年度 251ha)</p> <p>集落園芸面積 300ha</p> <p>・有望な品種を現地で栽培実証し、赤、黄、オレンジのカラフルなスペシャルミディトマトを3品種開発します。</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>今年度からトマトの生産を開始した1か所(小浜市)を含めた13か所でミディトマト、フルーツトマト、イチゴ等を周年生産し、生産量は952tに拡大しました。</p> <p>大規模園芸施設販売量 952t</p> <p>排水性の良い圃場づくりを行った大規模栽培を県内11か所で開催しました。 また、集落営農への園芸導入を推進した結果、ネギ、キャベツ、タマネギ等の栽培面積は昨年度から50ha増加し、304haに拡大しました。 キャベツについては、昨年度、福井市に整備した集出荷貯蔵施設を活用し、関西方面に契約販売を行いました。</p> <p>集落園芸面積 304ha</p> <p>県内4か所(福井市1か所、坂井市2か所、小浜市1か所)で3色のスペシャルミディトマトを栽培実証し、高糖度の3品種を開発しました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○「福井百歳やさい」の生産拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 越前白茎ごぼう、菜おけ、吉川ナスなど「福井百歳やさい」の生産面積の拡大を支援し、直売所や農家民宿・農家レストラン等への販売を促進します。 (平成29年度 17.1ha) <p style="text-align: center;">福井百歳やさいの生産面積 20ha</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>チラシの作成や報道機関への情報発信など、PR活動の強化により県内需要を拡大し、生産面積が、菜おけ1.1ha、勝山水菜0.3ha、河内赤かぶら0.2ha拡大しました。 また、吉川ナスは、「国体・障スポ」期間中に道の駅などで、フェアを開催したこと等により、販売額が向上しました。</p> <p style="text-align: center;">福井百歳やさいの生産面積 20.1ha</p>
<p>○畜産物の生産・販売拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 若狭牛の導入支援や提供店の新規開拓を行い、三ツ星若狭牛の生産・販売を拡大します。 (平成29年度 3.4億円) <p style="text-align: center;">三ツ星若狭牛販売額 3.5億円</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たに「福地鶏」の肉の販売を開始します。また、たまごやたまごを使ったスイーツ、肉料理をPRし、福地鶏の生産・販売を拡大します。 (平成29年度 1,252万円) <p style="text-align: center;">福地鶏販売額 2,400万円</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>若狭牛の生産振興として、交雑牛から若狭牛への転換などで若狭牛の増頭を75頭支援しました。 また、販売促進のため提供店を24店開拓して149店に増やしたほか、食の祭典等のイベントでの試食や飲食店での三ツ星若狭牛フェアを開催しました。</p> <p style="text-align: center;">三ツ星若狭牛販売額 3.6億円</p> <p>ふくい国体などのイベントにおいてスイーツや肉料理のPRを実施しました。 肉料理は県内15店舗で提供を開始し、福地鶏提供店舗はたまごやスイーツの取扱店と合わせ69店舗となりました。 また、養鶏農家の設備整備支援を行い、生産拡大を図りました。</p> <p style="text-align: center;">福地鶏販売額 2,440万円</p>

項目	実施結果
<p>○6次産業のスケールアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 食文化、歴史などの地域のストーリー性や食材の栄養成分を新商品の開発・販売に活かし、「国体・障スポ」などで土産物としてPRすることにより販路開拓を進め、6次化商品の販売額を増やします。 (平成29年度 2.9億円) ふくいオリジナル酒米の品種を県酒造組合と共動して選定し、地酒の開発を支援します。 <p style="text-align: right;">6次化商品の販売額 3.3億円</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>6次産業化サポートセンターによる専門家の派遣や技術相談、補助事業の活用などを通じ、機能性表示食品の梅清涼飲料水や、地域の特産物や食文化を活かした商品（鯖の熟れ鮓し等）など、新たに23商品を開発し、これまでに開発した商品が185に増えました。 これら商品について、県内商談会の開催や県外展示会への出展のほか、「国体・障スポ」などでのPRにより、販売額は3.3億円に増加しました。</p> <p>大吟醸酒に最適な酒米の開発を県酒造組合と共動して取り組み、新たな酒米を開発しました。 酒米の名称については、全国から2,778件の応募があり、この中から、県酒造組合とも協議し、「さかほまれ」と名付けました。 今後、この酒米を原料に、「米、酵母、水」のすべてが福井県産となるふくいオリジナル地酒の商品化を支援していきます。</p> <p style="text-align: right;">6次化商品の販売額 3.3億円</p>
<p>◇「里山里海湖ビジネス」の新展開【部局連携】</p> <p>○中山間産業の新スタイル</p> <ul style="list-style-type: none"> 農地の維持管理が困難な中山間地域等において、JA等による広域作業受託組織を育成し、耕作放棄を防ぎます。 (平成29年度 累計8組織) <p style="text-align: right;">広域作業受託組織の設立 2組織増 累計10組織</p> <ul style="list-style-type: none"> 中山間地域において、収益性の高い施設園芸や、鳥獣被害の少ない果樹栽培を推進します。また、小規模な生産組織を10集落で育成します。 (平成29年度 累計42か所、7.3ha) <p style="text-align: right;">施設園芸や果樹栽培への転換 18か所増 累計60か所 1.7ha増 累計9.0ha</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>JA福井市南部、JAテラル越前では、新たに広域受託組織を育成し、県内10組織により中山間地域での水稲、大豆等の作業受託をのべ671ha行いました。</p> <p style="text-align: right;">広域作業受託組織の設立 2組織増 累計10組織</p> <p>越前町馬場、高浜町鎌倉など県内15か所においてハウス整備の支援を行い、トマトやキュウリ、ブドウなど収益性の高い施設園芸への転換を進めました。 鳥獣被害の少ない果樹栽培の推進については、大野市大月、南越前町合波など県内4か所においてカリン、クルミ、カキの栽培を進めました。</p> <p style="text-align: right;">施設園芸や果樹栽培への転換 19か所増 累計61か所 2.1ha増 累計9.4ha</p>

項目	実施結果
<p>・特用林産物については、ジャンボしいたけ（香福茸）や菊炭、オウレンなど付加価値が高いものや、くず、コウゾ、ウルシなど本県の伝統産業を支える原材料の生産を支援し、販売を拡大します。 （平成29年度 6.9億円）</p> <p style="text-align: right;">特用林産物生産額 7.5億円</p>	<p>ジャンボしいたけ（香福茸）について、原木などの資材購入や、生産技術研修会の開催を支援し、生産者8名が12月に初出荷を行いました。</p> <p>林業遺産に認定されている越前オウレンについて、販売先との価格の交渉や採取量等の意向調査を実施したほか、越前和紙の原料（コウゾ）や越前漆器の原料（ウルシ）の植栽など、伝統技術の継承を支援しました。</p> <p>また、里山の資源（きのこ、山菜等）を活用したビジネスを推進するため、生産や販売にかかる研修を開始しました。</p> <p style="text-align: right;">特用林産物生産額 7.5億円</p>
<p>○福井型・新グリーンツーリズム</p> <p>・ミニ農家レストラン、ミニ直売所、体験交流型農園の整備を支援することにより、里山里海湖ビジネスを推進します。 （平成29年度 累計102か所）</p> <p style="text-align: right;">農家レストラン、直売所、体験交流型農園の整備 32か所増 累計134か所</p> <p>・ワイン醸造やワインブドウ栽培にかかる人材を育成する「ふくいワインカレッジ」を5月に開校し、県産ワインによる中山間地域の振興を図ります。 チャレンジ施策</p> <p>・タコかごや刺網の漁業体験メニューの新設や、マハタやトラウトサーモンなどのコース料理を県内外にPRし、さとうみの宿の売上額を増加させます。 （平成29年度 39億円）</p> <p style="text-align: right;">さとうみの宿の売上額 40億円</p> <p>・県内3箇所を設定したトレイルコースにおいて、イベントの開催を支援し、誘客を進めます。 （平成29年度 1.7万人）</p> <p style="text-align: right;">トレイルコース利用者数 2.0万人</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>ミニ農家レストラン7か所、ミニ直売所4か所、体験交流型農園21か所の施設整備を支援することで誘客を促進し、里山里海湖ビジネスを推進しました。</p> <p style="text-align: right;">農家レストラン、直売所、体験交流型農園の整備 32か所増 累計134か所</p> <p>「ふくいワインカレッジ」を5月に開校しました。17名の受講生にワイン用ぶどう栽培やワイナリーを開業するための知識・技術の講習を行いました。</p> <p>タコかごや刺網、漁船クルーズなど体験メニューの新設・拡充、マハタやトラウトサーモンなどのコース料理の県内外へのPR、リフォームなどの環境整備によって誘客の促進を図ったことにより、さとうみの宿の売上額が増加しました。</p> <p style="text-align: right;">さとうみの宿の売上額 40.1億円</p> <p>「ふくいSatoyamaトレイル」を活用したイベント「府中馬借街道トレイルラン」や「朝倉トレイルラン2018」を開催するなど、誘客を進めました。</p> <p>また、スマートフォン用アプリやトレイルマップのPRや配布によって誘客を図ったことにより、トレイルコースの利用者が増加しました。</p> <p style="text-align: right;">トレイルコース利用者数 2.2万人</p>

項目	実施結果
<p>○鳥獣の被害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 被害の実態に応じた電気柵・金網柵等の新規整備や更新、地域ぐるみの追い払い活動等を行い、農作物の被害を減らします。 (平成29年度 148ha) <p>有害鳥獣による農作物被害面積 150ha 以下</p> <ul style="list-style-type: none"> シカの捕獲技術の向上を図るための研修会の開催や優良捕獲者の登録・派遣を行う人材バンクの活用を市町に促すことにより、体制を強化し、有害鳥獣の捕獲を進めます。 (平成29年度 21,100頭) <p>有害鳥獣捕獲頭数 21,000頭</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>集落リーダー研修会等を通じて集落全体で侵入防止柵の管理や追い払い活動などの鳥獣害対策を進めるとともに、獣種に応じて金網柵や電気柵、ネット柵を6.3km整備し、被害防止に努めました。</p> <p>有害鳥獣による農作物被害面積 146ha</p> <p>年間を通じてシカを捕獲するため、くくりわな猟や集団での銃猟の実地研修を行い、シカ捕獲技術の向上に努めました。また、若手の猟友会会員等を対象とした新たな研修会や猟友会女性部会の設立により、捕獲体制の強化を図りました。</p> <p>有害鳥獣捕獲頭数 21,000頭(見込)</p>
<p>◇「ふくい食ブランド」を地消・外商【部局連携】</p> <p>○日本でいちばんおいしい学校給食へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校における学校給食畑を県内全小学校で実施することとし、さらに生産者との交流や、先進的な生産現場の見学を支援します。また、「ふくいの田んぼでスマイル写真コンテスト」を9月まで募集し、広く県民に農業の大切さや魅力を伝えます。 (平成29年度 170校) <p>学校給食畑実施校数 190校(県内全校)</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>市町・JAなどの関係機関を通して、学校と生産者の調整を図り、学校給食畑を190校(県内全校)で実施した他、野菜の収穫体験や集出荷施設の見学などを通じて子どもたちが生産者と交流しました。また、「ふくいの田んぼでスマイル写真コンテスト」に75点の応募があり、これらの作品を通じて、広く県民に農業の大切さや魅力を伝えました。</p> <p>学校給食畑実施校数 190校(県内全校)</p>
<p>○福井ゆかりの店ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 産地視察等を通じて県外有名店シェフに本県食材をPRし、新鮮配送システムの活用により、「福井ゆかりの店」の販売額を拡大します。 (平成29年度 4,300万円) <p>「福井ゆかりの店」の販売額 5,000万円</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県外事務所の協力を得ながら店舗への営業活動を強化し、新たに首都圏6店舗、関西圏8店舗(累計272店舗)を「福井ゆかりの店」に登録しました。また、県産食材の使用拡大を図るため、シェフ等による産地視察や大都市圏のレストランにおける「福井フェア」を開催したほか、「いちほまれフェア」を40店舗で展開しました。</p> <p>「福井ゆかりの店」の販売額 5,169万円</p>

項目	実施結果
<p>○海外に売り込む「福井の食」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ふくい食輸出サポートセンター」が中心となり、香港やシンガポール、台湾のほか、新たにタイをターゲットとして、食文化提案会や商談会、飲食店での福井フェア等を開催します。本県の食材を取り扱う飲食店や新たに輸出に取り組む県内事業者を増やし、食品輸出額を拡大します。 <p>チャレンジ施策 (平成29年度 飲食店 累計30店 事業者 累計27事業者)</p> <p>県産食材取扱い飲食店数 10店増 累計40店 輸出に取り組む事業者数 3事業者増 累計30事業者</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>アジアへの食品輸出を拡大するため、農漁業団体、経済団体、観光団体と一体となり、今年度はタイにおいて初めて食文化提案会（11月）を開催し、現地飲食店等に対して、越前がにや福井米、そば、梅酒など本県の農林水産物・食品を売り込みました。</p> <p>また、提案会に併せた商談会や香港での商談会（10月）を開催し、県内の食品・工芸品・観光事業者が現地輸入卸売業者等と商談を行いました。</p> <p>その結果、現地飲食店におけるふくいサーモン、越前がに、若狭ぐじなど本県食材を使用したフェアの開催や、新たに輸出を開始する県内事業者の増加につながりました。</p> <p>県産食材取扱い飲食店数 12店増 累計42店 輸出に取り組む事業者数 4事業者増 累計31事業者</p>
<p>◇もうかる漁業へ転換加速</p> <p>○里山里海湖の「宝」を福井ブランドへ</p> <ul style="list-style-type: none"> 食や旅行に関心の高い個人をターゲットに越前がにをPRするとともに、地理的表示（GI）保護制度への登録を目指しブランド力の保護・向上を図ります。 県内の大型養殖施設において、ふくい育ちのトラウトサーモンの養殖を拡大するため、既存の内水面施設を活用して県産種苗を7.5万尾から12.5万尾に増産し、日本一の生産地を目指します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>9月に、カニでは全国で初めてGI登録され、ブランド力の保護・向上を図りました。さらに、GI表示したタグにより他産地と差別化を図りました。</p> <p>また、漁解禁にあわせて、YouTubeでのインターネット広告によるPRを実施しました。</p> <p>大野市宝慶寺の施設に自動給餌器を増設し、県産種苗を前年度より5万尾増の12.5万尾に増産しました。</p>
<p>○地魚の加工・流通拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 水産加工施設において、新たにHACCP認証を取得し、漁協女性部と共動した料理や惣菜を開発します。また、ラッピングカーによるPRや首都圏における商談会の開催により、加工品の販売を増やします。 <p>(平成29年度 385億円)</p> <p>加工品販売額 395億円</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>水産加工施設において、1月にHACCP認証を取得しました。漁協女性部と共動し料理等を開発し、国体・障スポにおいてPRを実施しました。</p> <p>また、首都圏における商談会を活用し、福井ゆかりの店等へ加工品を売り込みました。</p> <p>加工品販売額 397億円</p>
<p>○水産学術産業拠点の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> トラウトサーモンの共同研究の成果を活用した、地下海水による中間育成施設の候補地を選定するとともに、マハタの種苗生産施設を年度内に建設します。 	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>毎月の地下海水調査結果を基に、トラウトサーモンの中間育成施設の候補地として、おおい町大島を選定しました。</p> <p>また、マハタの種苗生産施設の建設を10月から開始しました。</p>

項目	実施結果
<p>◇森林を市場にもっと直結 ○県産材をフル活用</p> <p>・コミュニティ林業や民有林と県有林が一体となった木材生産団地を拡大し、山ぎわ等の間伐を進め、県産材の生産を増やします。また、主要道路や国体会場周辺等での間伐を進めます。 (平成29年度 累計115集落)</p> <p style="text-align: center;">コミュニティ林業 20集落増 累計135集落</p> <p>・製材所のニーズに応じて、安定的かつ効率的に丸太を供給するシステムを構築し県産材の利用量の増加を図ります。 (平成29年度 ー)</p> <p style="text-align: center;">新システムによる県産材の利用 3,000m³</p> <p>・A材の需要を拡大するため、国内最大規模の展示会への出展や大手建材メーカー等との商談会を開催し、都市圏などへの県産材製品の新たな販路開拓を行います。 (平成29年度 550m³)</p> <p style="text-align: center;">県産材製品の販路開拓 1,000m³</p> <p>・間伐材をA、B、C材に選別し、効率的に出荷するためのウッドターミナル等を整備し、流通の低コスト化を実現し、木質バイオマスへの安定供給を着実に進めます。 (平成29年度 58,000m³)</p> <p style="text-align: center;">ウッドターミナル等取扱量 80,000m³</p> <p>・GPSを活用した境界測量等に対して支援し、山ぎわの森林境界の確認を加速します。 (平成29年度 累計3,200ha)</p> <p style="text-align: center;">森林の境界確認 1,800ha増 累計5,000ha</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>コミュニティ林業については、集落での説明会(53回)や集落リーダー研修会(4地区)などにより、20集落で木材生産組合が設立され、4万8千m³の間伐材が生産されました。 民有林と県有林が一体となった木材生産団地については、10か所増え、40か所に拡大しました。 また、一乗滝に向かう県道沿いや若狭梅街道沿いなどでの間伐を実施しました。</p> <p style="text-align: center;">コミュニティ林業 20集落増 累計135集落</p> <p>地上レーザー機器を使用して、立木の曲りや規格の調査を行い、丸太商談会等を通じて、製材所の求める丸太規格を把握した上で、供給可能な森林から丸太を直送供給しました。</p> <p style="text-align: center;">新システムによる県産材の利用 3,050m³</p> <p>国内最大の展示会「ジャパンホームショー」(11月東京)をはじめ、「WOODコレクション」(1月東京)への出展、大手建材資材メーカーや東京都の福祉法人等との商談会を開催し、県産材製品の都市圏での販路開拓を進めました。</p> <p style="text-align: center;">県産材製品の販路開拓 1,030m³</p> <p>ウッドターミナル等については、4月に福井市の木材流通センターに木材ストック機能を新たに追加し、間伐材A、B、C材の仕分けに加え、大型車で合板工場や木質バイオマス発電施設へ直送するなど、流通を効率化しました。</p> <p style="text-align: center;">ウッドターミナル等取扱量 81,000m³</p> <p>集落座談会やモニター研修会でのPR、市町や森林組合職員等を対象とした研修の実施等により事業推進に努めGPSを活用した山ぎわの森林境界の確認を進めました。</p> <p style="text-align: center;">森林の境界確認 1,800ha増 累計5,000ha</p>

項目	実施結果
<p>2 福井から人材育成 ◇産業人材の育成・誘致システム ○人材育成カレッジなど研修体制を充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 園芸カレッジにおいて、排水対策や冬期間の施設管理など気象災害に遭わないための実習を強化するとともに、修了生や若手農業者との交流を進め、スムーズな就農に繋がるよう支援します。 水産カレッジにおいては、小型船舶や無線の資格のほか、新たに水揚げや運搬に使用するクレーン、フォークリフトの資格取得のカリキュラムを追加し、新規漁業就業者を確保・育成します。 ふくい林業カレッジにおいて、伐採・搬出技術や林業機械の運転資格の取得のための研修などを行い、新規林業就業者を確保・育成します。 農林水産系高校を対象に最先端技術の授業を実施するとともに、カレッジでの現地見学会等を開催し、就業に結びつけます。 (平成29年度 農業累計261人 漁業累計 62人 林業累計130人) <p>＜農業＞ 新規就農者数 89人増 累計350人</p> <p>＜漁業＞ 新規就業者数 18人増 累計80人</p> <p>＜林業＞ 新規就業者数 50人増 累計180人</p> <ul style="list-style-type: none"> ふくい農業ビジネスセンターにおいて、農家レストランや農家民宿等の実践に必要な研修を開催し、農業ビジネスを実践する人材を育成します。また、開業に向けた個別のアドバイスや誘客活動を支援します。 (平成29年度 累計130人) <p style="text-align: center;">農業ビジネスの人材育成 34人増 累計164人</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>ふくい園芸カレッジでは、トラクターなどの機械操作や店頭販売など、実践力を高める研修を強化するとともに、若手農業者との交流会を開催するなど、30人の新規就農者を育成しました。 また、大規模施設園芸希望者4名を対象にICTを活用した技術習得研修を実施しました。 その他、県独自に45歳以上の県外者にも給付金を支援しており、今年度は県外10人を含む91人が本県で就農しました。</p> <p>平成30年度は水産カレッジに6名が入校し、クレーン等の機械操作や漁獲物の販売方法など、漁業に関する知識や技術習得の研修を受講しました。 就業希望者に対して漁業体験研修等を実施し、就業に結び付けました。</p> <p>UIターン3名を含む6人の入校者に対し、林業に関する知識や技術の習得、資格取得のための研修を実施するなど、新規就業者の確保・育成を進め、林業カレッジ生を就業に結び付けました。</p> <p>農業系高校3校に対しては、果樹の栽培技術やスマート農業についての出前講座を行い105名が受講しました。また、農業試験場においてナシの剪定実習等を行い延べ216名が受講しました。 林業分野では、農林水産系高校の高校生および保護者175名に対し、説明会を開催し、就業に結び付けました。 水産系高校の33名に対して、水産試験場栽培漁業センターにおいて種苗生産の実習や現場見学を行いました。</p> <p style="text-align: center;">農業ビジネスの人材育成 61人増 累計191人</p>

項目	実施結果
<p>・総合グリーンセンターにふくい林業研修センターを開設し、新たに山菜やきのこの生産販売研修や県産材を利用したDIYを行うなど、人材育成研修を5月初旬から年間280日(受講者延べ5,000人)実施します。</p>	<p>4月に、総合グリーンセンター内に「ふくい林業研修センター」を開設し、伐採技術や特用林産物の生産販売拡大をめざす「里山ビジネス塾」、県産材を使用した親子DIYなど、人材育成研修を延べ280日実施し、5,786人の受講者がありました。</p>
<p>3 日本一の安全・安心 ◇あらゆる災害対応を迅速第一 【部局連携】 ○ハード・ソフトの県土強靱化 ・基幹的農業水利施設20施設の診断を行い、機能保全計画を策定し、コンクリート構造物のひび割れ補修・断面修復やポンプ設備の部分的更新などの長寿命化対策を行います。 (平成29年度 累計380施設)</p> <p style="text-align: center;">機能保全計画策定施設数 20施設増 累計400施設</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>新たに農業水利施設20施設について機能診断を行い、施設の老朽化の状況を把握しました。 安全・安心を確保するための対策を適切に行うため、機能診断を行った施設について、機能保全計画の策定を同時に実施し、長寿命化対策の推進を行いました。 また、県内すべてのため池を点検し、施設の老朽化状況を把握しました。</p> <p style="text-align: center;">機能保全計画策定施設数 20施設増 累計400施設</p>
<p>4 豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に ◇元気な里山里海湖【部局連携】 ○福井の豊かな里山里海湖を次世代に ・農道や水路沿いにコスモスなどを植栽する農村景観保全や水田魚道の設置などの生態系保全を行う集落数を増やし、すぐれた風景、豊かな環境を次の世代に引き継ぎます。 (平成29年度 累計1,070集落)</p> <p style="text-align: center;">農村環境保全取り組み集落数 30集落増 1,100集落</p>	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>市町、多面的機能発揮推進協議会と共働で農村環境保全に関する取組みを促したことにより、新たに129集落が取組みを開始しました。</p> <p style="text-align: center;">農村環境保全取り組み集落数 129集落増 1,199集落</p>
<p>5 国体・障スポの成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に ◇県民総参加の福井国体・障スポ【部局連携】 チャレンジ施策 ○花づくり活動の推進 ・競技会場へのアクセス道路沿い等17か所において、花を植栽する「花の回廊づくり」を県内各地の地域団体等と実施します。</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>地域の植栽団体をはじめ、小中学校等の子ども達や地元企業の協力も得て、競技会場へのアクセス道路沿い等17ヶ所で、花を植栽する花の回廊づくりを実施し、国体・障スポ参加者を、花でおもてなしました。</p>

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)